

災害被災者支援と災害対策改善を求める広島県連絡会（略称：広島県災対連）

広島災対連NEWS

NO21 2016年6月13日発行

事務局：広島県労連 広島市東区光町 2-9-24-205 TEL082-262-1550 FAX082-261-5059

ブログ//h-kenroren.cocolog-nifty.com// [E-mail/bwz23598@nifty.com](mailto:bwz23598@nifty.com)

熊本地震支援ボランティア・活動開始

広島県災対連より 12名参加



△熊本支援センター前で（6月13日）

広島県災対連が呼びかけた、6月13日～15日の熊本支援ボランティアには以下の12名が参加しました。県労連、川后、門田、全教、藤中、石田、金子、自治労連亀井、国労徳永、医労連藤本、石川、共産党林、二見、民商居神。参加者の初日の感想を紹介します。

◇益城町の地震被害。建物被害は一階が潰れているものが多い。そこに住んでいた人たちの気持ちを想うと恐怖を感じる。被害を受けて暮らせない家の中に、被害がほとんどなく、今までどおりの生活をする家があり、復旧、復興は難しそうだ。（全教・藤中茂）

◇益城町にはたくさんの1階の無い家がありました。赤い貼り紙の家、青い屋根の家がたくさんありました。あれから2ヶ月がたつのにただただ普通に暮らすだけのことが、いまの政治には守れない。



△1階が倒壊したアパート前で説明を聞く

益城町はふつうの町なのに風変わりな家がいまもたくさんあります。他人事ではないと、つよく感じました。税金の使い方がまちがっている。そうつよく感じました。

(医労連・藤本健)

◇益城町の視察をさせていただいた。被害の甚大さはもちろんのこと、復興の困難さを改めて感じた。街には、生活、建物の取り壊し、修繕、仕事、引っ越し、運搬と、復旧作業のあらゆるものが混在している。道路の渋滞や資材置き場の混雑、駐車場の不足など、復旧作業を妨げるであろう要因を、どのように整理していくのか。まさかボランティアをさばく社協任せというわけではあるまいが…。国や自治体の対応が肝心である。(全教・石田誠)

◇まず、熊本支援センターの対応に感謝です。初日は益城町の見学を行いました。益城町は予想外の被害でびっくり。震災から2カ月経過していますが、家の「危険判定」ができておらず、次の段階に進めません。判定をしている行政マンのゼッケンには徳島県の文字が。全国の支援で頑張っています。



壊れた家の前のビニールハウスの横で話し合う老人の様子が目に残りました。倒壊した地域(家)、「危険」判定をされた家、その横には何事もなかったように無事な家。どちらにしても、当時の光景はすさまじかったんだなあ、と感じます。昨日は震度5弱の余震が熊本にあったようです。テントも多く見ましたが、まだまだ、不安の中で心細く暮らしているんだと思います。

今日は、引っ越し手伝いのみ。明日から少しでも、熊本の皆さんに寄り添い、「元気」を出してもらえるよう頑張ります。(県労連・門田勇人)

◇まだ、これからと感じた。作業は、初日でこれから。宿舍のとなりの家屋もヒビがはいりたいへん(自治労連・亀井正美)

◇益城町の倒壊した家を目の前になるとやはりショックでした。幹線の道の周り崩れかけの家から早く対処をと説明があったがその通りだと思う。今日は仕事は冷蔵庫を三階から下ろしただけでもったいない気がした。明日は何をするのだろう。(共産党・林ひろし)

◇屋根瓦がずり落ちた屋根、ブルーシートがかかった屋根。そんな風景を見ながら熊本市内に入りました。しかし、益城町に入るとさらに惨状が目に見えて飛び込んできます。一階部分が完全になくなっている家屋、梁が突き出て倒壊した家



△洗濯機を二階から移動する二見、石川氏

屋。ここに住んでいた人たちはどうなったのだろう…。地元の案内役のお話では「無事に難を逃れて近くの施設で避難生活されている」とのこと。ホッとした半面、これからの再建にむけて、どんなに不安を抱えておられることだろうと、思わず込み上げてくるものがありました。復旧の力になりたい。そして再建のための活動はもっと力が必要。そんな思いで被災地の現状を目に焼き付けました。(民商県連・居神友久)

◇6月13日 雨のち晴れ 朝7時、東区の県労連を出発。高速を降り熊本市内に入るとブルーシートを屋根に被せている家が目立つ。益城町の現況を視察。陸前高田市へボランティアに行ったときも思ったが、テレビの映像と実際はだいぶ違う。崩れた家の多さに絶句。東海大学の学生アパートと同じように、1階がペしゃんこになっている建物も少なくない。今日は熊本市内での荷物をアパートの3階から冷蔵庫や洗濯機などを運びだして届ける作業。12人もいるので、あっという間に終了した。明日は、益城町での作業だが、何をするかは行ってみないと分からない。今日、案内してくれたのは、菅原さん。いろいろ詳しいので地元の人かと思ったが、なんと宮城県からきたボランティアでした。

明日の作業、安全に気をつけ、少しでも役に立てるよう頑張ります。明日はいい天気になりそうですが、最高気温、30℃、熱中症に御用心です。(共産党・二見伸吾)

◇益城町の被災はテレビで見えていましたが、実際、体験すると違いました。そこにある(あった)生活が見えるのです。一階が崩れたアパートには自転車があり、そこには〇〇高校のシールが張られています。この自転車の持ち主は、生きていますか？いまだどこで何をしているのか？。いたるところにある被災した家々、人々、生活、そこにあつた日常と今ある避難生活。わけのわからないほどおおい情報に戸惑います。被災地について歩いてすぐ、眉毛の上が痛くなりました。日差しが強さと無意識に崩れた町並みをみる目に顔をしかめて、痛くなったのでしょうか(本当は顔をしかめてはいけなないのでしょうが)。体は正直なのでしょう。今回のボランティアで、自分に何ができるのかは分かりませんが、できることはやってみようと思いました。「がんばろう熊本」という横断幕を各所でみました。がんばってみよう自分！以上感想です。(医労連・石川昇)

◇1日目、益樹町中心部を通りました。テレビなどで見てはいましたが1階部分が潰れた家が多いのには驚きました。日本列島どこでもこうなるのでしょうか。原発は日本のどこにもダメだと実感しました。(国労・徳永聖)

◇熊本着。益城町を案内してもらいました。家屋の被害は想像以上、しかし、その隣に被害の無い家。災害は残酷です。明日は被災地で支援に。頑張ります。(川后和幸)



△大型冷蔵庫を移動